

六八 下屋敷差遣候儀申渡

御家中下屋鋪

五千石	高昌左京亮
一、一町二段半	横山山城守
一万五千石	同式部少輔
一、三町七段半	山崎市正
五千石	村井出雲守
一、一町二段半	長九郎左衛門
一万七千石	大宗隅守平
一、四町二段半	三輪志摩守
一万七千三百石	小幡駿河守
一、四町三段二拾五步	奥村周防守
一万三千石	石野讃岐守
一、八町二段半	
二万四千五百石	
一、六町一段二拾五步	
七千二百五十石	
一、一町八段一畝七步半	
六千石	
一、一町五段	
五千石	
一、一町二段半	
六千九百石	
一、一町七段二拾五步	

三千九百石	加藤石見守
一、九段七畝拾五步	奥野紀伊守
五千五百石	玉井市正
一、一町三段七畝拾五步	
四千石	
一、一町	
以上	

右中納言様御説之並に歩割書付可遣旨、筑前様就御意如斯候。以上。

(慶長十三年) 亥九月廿三日

奥村河内守
篠原出羽守
横山山城守

六九 侍屋敷渡方之儀御定

金澤屋鋪之法度

浅野 將監殿
河原 兵庫殿
野村五郎兵衛殿
西村右馬助殿
石川 茂平殿

一、今度高岡衆に相渡候家中下屋敷替地之事。此已前之屋

敷之通、惣構之外にて可遣候事。

一、新儀に屋敷申談もの於有之は、奉行共に相尋可遣候事。

一、侍屋敷致賣買候事、此已前より堅令停止候。若法度相背者於有之は、買主可爲失墜之條、何も相改可申上候事。

一、惣構侍屋敷之内に、寺庵并諸職人於有之は、是又相改可申上候事。

一、明屋敷之事、何も令穿鑿可申上候事。

一、惣構土居之内道之事、二間通明可申事。

一、惣構之外下屋敷に出入之道筋、見計可申付事。

一、奉行人指圖之外に道を明、又は在來道ふさぎ候事、並土居之土を取堀を埋候事。

一、惣構之土居之竹、其屋敷通之者共として可相改候。若みだりに伐取候はゞ、屋敷主可爲越度旨可申聞候事。

右屋敷奉行之者共として、急度相改可申上候。若對奉公人猥之儀申もの於有之者、遂穿鑿可申付者也。

慶長十六年九月三日

利 光

浅野 將監殿

河原 兵庫殿
西村右馬助殿
野村五郎兵衛殿
石川 茂平殿

七〇 高岡より歸候侍屋敷 步圖り御定

高岡衆屋鋪之御定

一、一 万 石	四拾五間四拾間
一、九 千 石	同
一、八 千 石	四拾間四方
一、七 千 石	同
一、六 千 石	三拾五間四拾間
一、五 千 石	同
一、四 千 石	三拾三間三拾間
一、三 千 石	同
一、二 千 五百 石	二拾七間三拾間
一、二 千 石	同
一、千 九百 石より千五百石迄	二拾一間三拾間